
太陽ぱにつく。

七島 希意

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

太陽ぱにつく。

【Nコード】

N3228K

【作者名】

七島 希意

【あらすじ】

卒業。それは、終わりであり、始まりである。

つて！そんなしんみりした話じゃないっす。

これは、わくわくキラキラの学園ものッ！作者も加わって、予想できない物語。さーて、どんな物語なのか？

そして、終わりはあるのか？

それは・・・作者自身もわからないのです。

1 卒業（式）（前書き）

こんにちはッ！作者です。このたびはこんな物語を・・・（以下略）
今回は、たつのしー物語を書いていきたいと想っています。
初！主人公が女の子！

1 卒業（式）

卒業。

それは、今までの振り返りまた、終わりであり、これからの始まりである。

えっと・・・？

あれ？この学校では、これから卒業式が行われるらしいのですが・・・。

いませんねえ？主人公さんが。

物語はじまらないんですけど・・・？

さがいきましようかねー！。

気はのらないんですけど。

.....

あー！いたいた！

ここは・・・寮の部屋だね。

・・・・・・てことは？

「うーん。」

ベッドの上に1つの影があります。

ちよっ、おい！起きろよー！君が主人公でしょー！？

「あー！いつ？何時ですか？」

ただいま現在8：40ですが？

「ちこくー！？」

ですね。

一応。女の子なんだから。しっかりしてよー。

「そんなひまは今ない！」

もう！

少女は、すばやく制服に着替えると部屋にカギをかけ、走り出しました。

”廊下は走っちゃダメ！”って書いてあるけど？

「緊急事態の時は別だと思いまーす。」

そーなの？こんな主人公で大丈夫かなあ・・・？

「始まっちゃっうよー」(泣)

聞いてないし。ま・いつか。

では、主人公が学校に向かっているうちに私はちよつと・・・

「休まないでねー。寝るなよー。こっちは、起きてんだから。」

うっ・・・寝ねーよ。君じゃないから。

「じゃあ何を？」

えっと、っ、あっ、そうだッ！君の自己紹介しとくから。

「へー。じゃっ、よろしく。」

りょーかい。

えっ・・・と・・・。

まず、この子は

汰城たしろ 真陽流まひる

中3。本日卒業式。といつても、中高一貫なので隣の校舎に移るだ

け。

はつきり言ってやる意味くない？と、思う人が多いと思うけど、卒業がテ・マなのでご了承ください。

近道するために野山を越え、ミニスカートで学校の壁を乗り越える。こんな、少女ですが、かわいがってやってください。

おお。間に合いそーですねー。マヒルちゃん。

教室では、先生が最後になるだろう話をしていた。

「俺はなあ・・・お前たちのことぜつつつたい忘れないぞ・・・！」

7

「せんせー。先生が他の学校いかなければまた会えると思いまーす。隣の校舎に移るだけでーす。」

「せんせー。またあいましよー。」

生徒たちが笑い、教室は笑いであふれました。

その時でした。

ガラガラっ

教室の後ろ側のドアが開きました。

そこから現れたのは、もちろん。真陽流でした。

「汰城ー。最後の日まで遅刻か？しかも、寝癖がすごいぞ？」

「あー。すみません。ちょーーーーと寝過ぎました。

」

もち。ちょーーーーとではありません。

「卒業式の日が遅刻する奴ほかにいないな。」

「ありがとうーございまーす。」

「ほめてないぞー。まあいい。座れ。出席とるぞ。」

「あーい。」

マヒルちゃんは、遅刻の常習犯です。

寮暮らしなのに毎回遅刻する人もめずらしいです。

そして、先生が名前を読み上げます。

「えー、田中あー。x3」

ちなみに、クラスには田中が3人います。

田中あー。田中あー。田中あー。になるのでx3です。

「汰城あー。」

「.....」

「汰城？」

真陽流が話しかけました。

あれ？寝てたんじゃないんですかー？

「残念ながら私はいつも寝ているとはかぎりませーん。」

そーですかー。

「そーですー。」

そして、卒業式が始まりました。

さすがに卒業証書授与の時は、起きていましたが。

起きていましたが・・・？

そうです。校長先生の話やPTAの話は完全に爆睡です。

皆さんも寝るでしょ？意識とびますよねw

でも、さすがにマヒルちゃんですねーw

おーい！船こいでるよー。

ゆらゆらゆらゆら。。。。

大きい揺れです。ぐらんぐらんですよー。

今までいないでしょー。こんな揺れてる人。しかも自分の卒業式ですよー？

おーい！マヒルちゃん。。。あっ、やめよ。もうすぐ面白いことになるから。

鬼ですねーわたしー。

来るよ来る。おもしろいことかー。

教頭先生の声が広い体育館に響きます。

「えー・・・在校生きりーつ。」

がたがた。

在校生。つまりは、マヒルより年下の生徒が一斉に立ち上がります。

そして・・・

「ふえ？みんな立ってないなあ。あつ、在校生か。」

ひとり、マヒルだけが立ち上がりました。

もちろん。他の卒業生は立ち上がりません。

（笑

さすがマヒルちゃんだ。見事ひっかつたねー！

「作者さん。いじわるですか？」

いや、今回はマヒルちゃんが勝手にひっかかったんですよー？

「うそつけ。自分で考えてるくせに。」

そーなんですけどねー！

「もうひっかからないですけど？」

はい。なので、一気にとばします。

おもしろくないので。

ねたが思いつかないので。

「はい？」

マヒルちゃんが次みなさまに会うのは、マヒルちゃんが高校に通っているからです。

では、そのときまで・・・

ごきげんよー。

「ちよつ、まちなさいッ！卒業式の最中でみんなこっちみてるけど・・・みんなー。ありがとうーございました。」

まだまだ・・・

続くかも？いや、続きます。

1 卒業（式）（後書き）

お疲れさまでーす。例え、飛ばしたとしてもたいへんでしょう？
次は、高校ですわねー。

より多くの方が読んでくれることを願ってまーす。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3228k/>

太陽ばにつく。

2010年10月8日21時36分発行